日本キリスト教会　広島長東教会だより

ミニバラ No.23

〒731-0135　広島市安佐南区長東 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2009 年 1 月発行

神のものは神に

「イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。『偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい。』彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、『これは、だれの肖像と銘か』と言われた。彼らは、『皇帝のものです』と言った。すると、イエスは言われた。『では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』」

（マタイによる福音書 22 章 18~21 節）

或る時、ファリサイ派のものたちが、イエスを罠にかけようと、ヘロデ派の者たちと組んで、イエスのもとにやって来ると、こう質問しました。「皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか」、と。律法に適っているかいないかとは、つまり、神に従うことになるのか、それとも背くことになるのか、と言うことです。もしイエスが、「それは神に背くことだから、納めなくていい」、と言えば、イエスは皇帝に背くことを教えた、と言うことで、すぐさま訴えられ、捕らえられ、殺されたことでしょう。反対に、「納めてよい」、と言えば、「イエスもやっぱり皇帝が怖いのだ。何時もは人々に、『神をのみ畏れよ』、と教えているくせに、本心は違うのだ」、と民衆はガッカリして、去って行ったことでしょう。どう答えようと、イエスに待っているものは、破滅以外にないのですから、こんな上手い罠はない、と誰しも思ったに違いありません。

ところがイエスは、誰もが予期せぬ返答をなさいました。まずイエスは、「税金に納めるデナリオン銀貨を見せなさい」、と言われ、ファリサイ派の者たちが、これを見せると、「この銀貨に刻まれているのは、誰の顔で、ここに書かれている言葉は、誰に対するものか」、と問われました。彼らが、「皇帝のものです」、と答えると、「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」、と言われたからです。

デナリオン銀貨には、皇帝ティベリウスの顔が刻まれ、それに添えて、彼を神として讃える言葉も刻まれていました。イエスは言われるのです。「今はローマ帝国が支配する時代、その中で生きる以外に道はないのだから、そこに生きる者の義務として、税金を納めなさい。義務を怠っては、穏やかに、信心深く生きることも出来なくなる。しかし、どんなに皇帝が偉くても、彼は神ではない。彼を神のように崇めることは間違っている。あなた方が、本当に仕えなければならないのは、神以外にはないのだから、そのことは忘れないように。あなた方はあなた方の体をもって、神の栄光を現しなさい」、と。

創世記１章２７節には、「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」、と記されています。人間は、誰も皆、神にかたどって創造された、とは、人間一人一人には、言わば、神の肖像が刻まれているのだ、と言うことです。それは丁度、デナリオン銀貨にローマ皇帝の肖像が刻まれているのに似ています。デナリオン銀貨に皇帝の肖像が刻まれている、と言うことは、今は、ローマ皇帝が支配する時代であって、銀貨も、これを用いる者も、皆皇帝のもの、と言うことを表わしているのですが、これと同様、私たち人間一人一人に、神の像が刻まれていると言うことは、私たちは、神のものであって、私たちが生きているこの時代も、本当は神が御支配なさっている時代なのだ、と言うことを表わしているのです。だから、ローマの支配下に生きるユダヤ市民としては、皇帝に税金を納める義務を果し、見えない神の御支配の中に生きる神の民としては、神に仕えて生きるのです。

今、この時代、日本の国に生きている私たちも、日本の国民として、その義務を果すと共に、それだけでは終わらずに、神の国の市民として、見えない神に仕え、礼拝に、奉仕に、神を讃えて生きるのです。

牧師　三輪恭嗣

（2008 年 10 月 19 日の礼拝の説教より）